月　日　名前　　／50点

【答え】

【中2】国語 文章テスト　説明文 1/2

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

新しい靴は、はじめのうち足が痛い。ところが、しばらくはいていると、いつのまにか痛くなくなる。靴がやわらかくなっただけではない。足の形に合わせて、靴のほうが少しずつ形を変えたのだ。

道具には、このように使う人に合わせて変わっていく性質がある。長く使われた包丁は、持ち主の研ぎ方のくせに合わせて刃の形が変わる。使い込まれた野球のグローブは、持ち主の手の形を覚えている。道具は、使われた時間を自分の形の中にためこんでいくのである。

しかし、変わるのは道具だけではない。人のほうも、道具に合わせて変わっていく。はじめて筆で字を書く人は、筆先がどちらに曲がるか分からず、思いどおりの線が引けない。それでも練習を重ねるうちに、手が筆の動きを覚え、力の入れ方が自然に変わっていく。人は道具を使いながら、道具を使える体を作っているのだ。

つまり、道具が「手になじむ」とは、道具と人がおたがいに歩み寄った結果なのである。どちらか一方だけが変わったのではない。両方が少しずつ形を変え、ちょうどよいところで出会ったとき、道具は体の一部のように感じられる。

私たちの身のまわりには、買ったその日から完成している便利な物が多い。それはたしかにありがたい。けれども、時間をかけて自分と道具が歩み寄っていく楽しみは、そうした物からは得にくい。一本の鉛筆でもよい。長く使い続けてみると、道具と自分との間に、自分だけの関係が生まれていることに気づくだろう。

（この問題のための書き下ろし）

問一（十点）　「靴のほうが少しずつ形を変えた」とありますが、靴は何に合わせて形を変えたのですか。本文中から五字以内で抜き出しなさい。

足の形

問二（十点）　筆者は、道具は使われた時間をどうしていくと述べていますか。「～いく」につながるように、本文中から十五字以内で抜き出しなさい。

自分の形の中にためこんで

問三（十点）　第三段落で、筆者が筆で字を書く例を出したのはなぜですか。最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　筆は、包丁やグローブよりも古い道具であることを示すため。
イ　道具だけでなく、人のほうも道具に合わせて変わっていくことを示すため。
ウ　字を上手に書くには、よい筆を選ぶことが大切だと示すため。
エ　練習をしなくても、道具はいつか手になじむことを示すため。

イ

問四（十点）　「道具が『手になじむ』」とは、どういうことだと筆者は述べていますか。「道具」「人」という言葉を使って、四十字以内で説明しなさい。

道具と人がおたがいに少しずつ形を変え、ちょうどよいところで出会ったということ。

問五（十点）　最後の段落で筆者が述べていることとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　買ったその日から完成している物は、使わないほうがよい。
イ　便利な物はありがたいが、時間をかけて道具と歩み寄る楽しみも大切にしたい。
ウ　鉛筆のような安い道具は、長く使う価値がない。
エ　道具は新しいほど使いやすいので、こまめに買いかえるほうがよい。

イ

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

　駅前の古本屋で、百円の文庫本を買った。家に帰ってページをめくると、ところどころに鉛筆で線が引いてあった。前の持ち主のものだろう。はじめは、せっかくの本が汚れているようで、少しいやな気がした。

　けれども、読み進めるうちに、線の引き方が気になってきた。主人公が友人を裏切る場面の前後には、何本も線が重ねて引いてある。あるページの余白には、小さな字で「分かる」と書いてあった。主人公が、自分の弱さを誰にも言えずにいる場面だった。

　ぼくは、その「分かる」の字をしばらく見ていた。字は少しふるえていて、急いで書いたように見えた。この本を読んだ誰かも、主人公と同じように、誰にも言えないことを抱えていたのかもしれない。そう思うと、会ったこともない人が、すぐ近くに座っているような気がした。

　物語の後半になると、線はだんだん少なくなった。最後の章には、一本も線がなかった。前の持ち主は、ここまで読まなかったのだろうか。それとも、線を引くのも忘れるほど夢中になったのだろうか。ぼくには分からなかった。

　最後のページを読み終えたとき、ぼくは机の引き出しから鉛筆を出した。そして、主人公がようやく友人に本当のことを話す場面に、一本の線を引いた。余白に何か書こうとして、少し迷ってから、「ここまで読んで」と書いた。

　いつかこの本を手放すことがあったら、次に読む誰かは、ぼくの線を見つけるだろう。その人は、ぼくの字を見て、何を思うだろうか。ぼくは本を閉じて、表紙の手ざわりを確かめるように、そっとなでた。

（この問題のための書き下ろし）

問一（十点）　線が引いてあるのを見て、ぼくははじめどう感じましたか。本文中から二十五字以内で抜き出しなさい。

せっかくの本が汚れているようで、少しいやな気がした

問二（十点）　「会ったこともない人が、すぐ近くに座っているような気がした」とありますが、このときのぼくの気持ちとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　前の持ち主が本を汚したことに、腹を立てている。
イ　書き込みを通して、前の持ち主の思いを身近に感じている。
ウ　誰かに見られているようで、気味が悪くなっている。
エ　前の持ち主を探して、本を返したいと思っている。

イ

問三（十点）　最後の章に線がなかったことについて、ぼくはどう考えましたか。最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　前の持ち主は最後まで読まなかったのか、夢中になって線を忘れたのか、分からないと思った。
イ　前の持ち主は、最後の章がつまらなかったのだと決めつけた。
ウ　古本屋が、最後の章の線だけを消したのだと思った。
エ　自分も最後の章には線を引かないでおこうと決めた。

ア

問四（十点）　ぼくが余白に書いた言葉を、本文中から十字以内で抜き出しなさい。

ここまで読んで

問五（十点）　ぼくが「ここまで読んで」と書いたのはなぜだと考えられますか。前の持ち主の線のことにふれて、五十字以内で説明しなさい。

前の持ち主が最後まで読んだか分からなかったので、次に読む人には最後の場面まで読んでほしいから。

【中2】国語 文章テスト（100点）　説明文 1/2　答えと解説（1問の配点は問題の半分）

問一（十点）　答え：足の形

解説：直前の「足の形に合わせて」が根拠。靴がやわらかくなっただけでなく、はく人の足に合わせて変わった、という点が第一段落の中心。

問二（十点）　答え：自分の形の中にためこんで

解説：第二段落の最後「道具は、使われた時間を自分の形の中にためこんでいくのである」が根拠。包丁とグローブは、その例。

問三（十点）　答え：イ

解説：第三段落の最初「しかし、変わるのは道具だけではない。人のほうも、道具に合わせて変わっていく」が、この例で言いたいこと。エは「練習を重ねるうちに」と逆。

問四（十点）　答えの例：道具と人がおたがいに少しずつ形を変え、ちょうどよいところで出会ったということ。

解説：第四段落の「道具と人がおたがいに歩み寄った結果」「両方が少しずつ形を変え、ちょうどよいところで出会ったとき」をまとめる。どちらか一方だけが変わったのではない、という点を落とさない。

採点のポイント（二つそろって満点、一つなら半分）

①道具も人も、おたがいに少しずつ形を変える（歩み寄る）

②ちょうどよいところで出会う

問五（十点）　答え：イ

解説：「それはたしかにありがたい。けれども～」と、便利さを認めたうえで、歩み寄る楽しみを述べている。アは言いすぎ。ウ・エは本文と逆。

【中2】国語 文章テスト（100点）　物語文 2/2　答えと解説（1問の配点は問題の半分）

問一（十点）　答え：せっかくの本が汚れているようで、少しいやな気がした

解説：第一段落の最後が根拠。この「いやな気」が、読み進めるうちに変わっていく。

問二（十点）　答え：イ

解説：直前の「この本を読んだ誰かも、主人公と同じように、誰にも言えないことを抱えていたのかもしれない」が根拠。「分かる」という書き込みから、前の持ち主の心を想像している。

問三（十点）　答え：ア

解説：第四段落の「ここまで読まなかったのだろうか。それとも～。ぼくには分からなかった」が根拠。エは、第五段落でぼくが最後の場面に線を引いていることと合わない。

問四（十点）　答え：ここまで読んで

解説：第五段落の最後が根拠。書く前に「少し迷ってから」とあり、言葉を選んだことが分かる。

問五（十点）　答えの例：前の持ち主が最後まで読んだか分からなかったので、次に読む人には最後の場面まで読んでほしいから。

解説：第四段落の、最後の章に線がないことへの疑問と、第六段落の「次に読む誰か」への思いをつなげる。ぼくは、前の持ち主から受け取ったものを、次の読み手へ渡そうとしている。

採点のポイント（二つそろって満点、一つなら半分）

①前の持ち主が最後まで読んだか分からなかった

②次に読む人には最後（友人に本当のことを話す場面）まで読んでほしい